

大阪・関西万博 京都ブース展示基本計画

大阪・関西万博きょうと推進委員会

令和5年9月

序章

- 1. はじめに P.04
- 2. 目的 P.05
- 3. 大阪・関西万博の概要 P.05
- 4. 関西パビリオン出展概要 P.06

第1章 大阪・関西万博きょうと基本構想における全体テーマについて

- 1. 全体テーマ P.09
- 2. 取組の方向性と考え方 P.10

第2章 京都ブース展示基本計画

- 1. コンセプト・キーワード P.12
- 2. 京都ブースの特徴 P.12
- 3. 京都ブースに必要な機能 P.12
- 4. 設計上の要件 P.13

第3章 京都ブース運営計画

- 1. 運営方針 P.15
- 2. 個別運営計画 P.15

第4章 全体スケジュール

- 1. 全体スケジュール P.17

序章

1. はじめに

1970年の「大阪万博」は、「人類の進歩と調和」をテーマに、77カ国の参加のもと、6,400万人が来場し、その幕を閉じた。

それから50年の間、我が国は、関西国際空港、山陽新幹線、明石海峡大橋等のインフラ整備や、インターネット等の情報通信技術の発展等により、人と人との時間的・心理的距離は大幅に縮まり、生活は劇的に便利になった。

一方で、高度経済成長が終わりを告げ、度重なる経済的危機に直面し、自然災害の頻発、新型コロナウイルス感染症拡大による健康への不安の高まり、少子高齢化・人口減少や、それに伴う地域コミュニティの希薄化、働き手不足も深刻化している。

世界に目を向ければ、東西冷戦の終結や、BRICs等新興国の台頭など、国際情勢は大きく変容し、人口の急激な増加は、食料問題や環境問題を一層深刻化させた。また、グローバル化の進展は、国と国との距離を縮めたが、戦争や感染症の拡大等による影響が、すぐさま世界中に波及するようになった。こうした課題に直面する中、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標としてSDGs（持続可能な開発目標）が設定され、国際的な協力の輪が広まってきている。

このように時代が目まぐるしく変化する中、2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで、再び関西において万博が開催される。

「大阪・関西万博」は、地域経済を活性化する起爆剤であり、また豊かな文化を発信するチャンスである。日本の博覧会発祥の地であり、SDGs先進地でもある京都では、この機会を最大限に活かすため、経済団体や行政、有識者等で構成されるオール京都の推進体制として「大阪・関西万博きょうと推進委員会」を設置し、取組の方向性を「大阪・関西万博きょうと基本構想」にまとめた。

推進委員会では、本構想のもと、オール京都で京都の未来、そして世界の未来を切り拓いていく。

本基本計画においては、今後の展示設計、展示制作業務を見据え、京都ブースのコンセプトや必要な機能、運営計画などの基本的な方針について定めるものとする。

2. 目的

万博を通じて京都が目指すもの

<京都が培ってきたまちの姿>

京都は、平安時代より、人や自然など様々な「いのち」を大事にし、共生する中で、奥深い文化を育んできた。また、そうした中で、伝統を守りつつ「遊び心」を取り入れながら革新を重ね、新たなものを常に創り出してきた。

現代においても、個性や特色のあるまちや山紫水明の豊かな自然を有するとともに、千年を超えて受け継がれてきた文化が生活の至る所に根付いており、この豊かな自然や文化を基盤として、食、産業、教育、観光などが、他に類を見ない発展を遂げてきている。

また、これに魅せられ、学生をはじめ国内外から多様な人々が集い、若い力に溢れ、人や地域、企業、大学、行政などの距離感が近い。

<万博を通じて京都が目指すもの>

このような京都が持つ強みや特徴は、万博全体のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」やコンセプト「未来社会の実験場」との親和性が非常に高い。

このため、大阪・関西万博を通じて、京都は、「環境」と調和しながら府内各地で育んできた奥深い「文化」、伝統から最先端まで多様な業種があり、質の高い技術や研究開発を有する「産業」、府内各地に様々な資源を有する「観光」などの魅力を世界へアピールし、人や投資を呼び込むことで、**京都府全域のさらなる活性化**につなげる。

また、万博を契機として、様々な人、企業、文化の「**新たなつながり**」を創り、「**伝統**」と「**革新**」を融合させながら、**未来の京都を担う人や企業、文化**をつくっていく。

3. 大阪・関西万博の概要

- 名称 2025年日本国際博覧会／（略称「大阪・関西万博」）
- 開催場所 夢洲（大阪府大阪市臨海部）
- 開催期間 2025年4月13日（日曜日）～10月13日（月曜日）184日間

- 来場者数（想定） 約2,820万人

- テーマ いのち輝く未来社会のデザイン “Designing Future Society for Our Lives”

- サブテーマ
 - ・ Saving Lives（いのちを救う）
 - ・ Empowering Lives（いのちに力を与える）
 - ・ Connecting Lives（いのちをつなぐ）

- コンセプト
People's Living Lab（未来社会の実験場）

- 関西広域連合パビリオンテーマ
いのち輝く関西悠久の歴史と現在

4. 関西パビリオン出展概要

● 出展参加でめざすもの

「地域に息づく「いのち」と未来へと続く「いのち」の発信」

- 受け継がれてきた歴史と観光文化資源に彩られた地域の魅力を体感する
- 住みよく働きやすい地域の力に触れてもらう
- 新たな産業を創出する地域の活力を示す

「関西各地へのゲートウェイ」

- 関西各地への来訪を促す展示を展開し、関西各地へのゲートウェイとなることをめざす
- 会場内外のイベントと連携し、万博会場だけにとどまらず、関西全体で万博のテーマを表現する

● 位置

東通り北側

● 出展参加の主体

関西広域連合

● 出展参加府県

滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、福井県、三重県



提供 2025年日本国際博覧会協会
関西パビリオン出展基本計画より引用

● 基本構成

① 関西全体を表現する展示エリア（大関西広場）

関西パビリオンのエントランスとして、「関西と関西各府県の歴史と文化の魅力」を主眼に置いた展示を展開し、関西の魅力を一体的に表現する

② 出展参加府県による独自展示エリア

それぞれの府県が来館者に訴求したいポイントに沿い趣向を凝らした展示を展開する

③ WEBパビリオン

会場に来ることができない人も関西パビリオンを体感できるよう、リアルのパビリオンとの連動やWEB独自のコンテンツ、周遊観光など地域への来訪を促進する機能を付加するなど、WEBの特性を活かして発信する



エントランスゾーン



センターサークル

関西パビリオン出展基本計画より引用

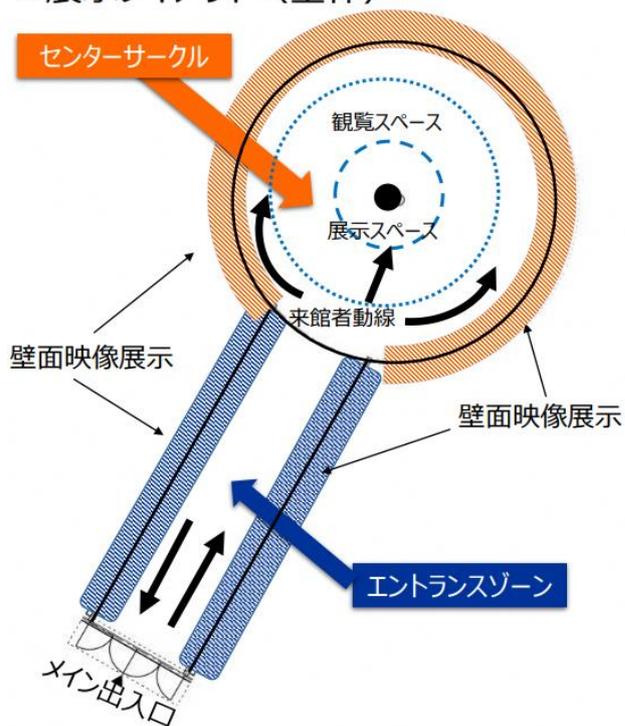
● 関西パビリオンおよび京都ブースのレイアウト

- 関西パビリオンに参加する府県は、大阪・関西万博の開催地を中心として取り囲むように立地
- その参加府県の地理や隣接関係を来館者が自然と感じとれるように、展示エリア内の並びを地理的配置で表現
- また中心で関西全体を表現する展示を展開することで関西を一体的にアピールする

■ 京都ブースの配置



■ 展示レイアウト (全体)



■ 関西パビリオンの外観イメージ



いずれも関西パビリオン出展基本計画より引用

第1章 大阪・関西万博きょうと基本構想
における全体テーマについて

1. 全体テーマ

一緒につくろう、京都の未来 ～ 伝統と革新で未来を拓く ～

Come Together , Create the Future ～ Leading with Tradition and Innovation ～

<テーマに込めた思い>

先人たちが作り上げ、受け継いできた京都のまちを、現代を生きる我々も未来へと繋いでいかなければならない。

そのため、京都が培ってきた強みや特徴を生かし、国内外からの万博の来場者に府内各地に来ていただくことで、京都府民との「つながり」や「共感」を創り、一体となって、京都の未来、そして世界の未来を切り拓いていく。

2. 取り組みの方向性と考え方

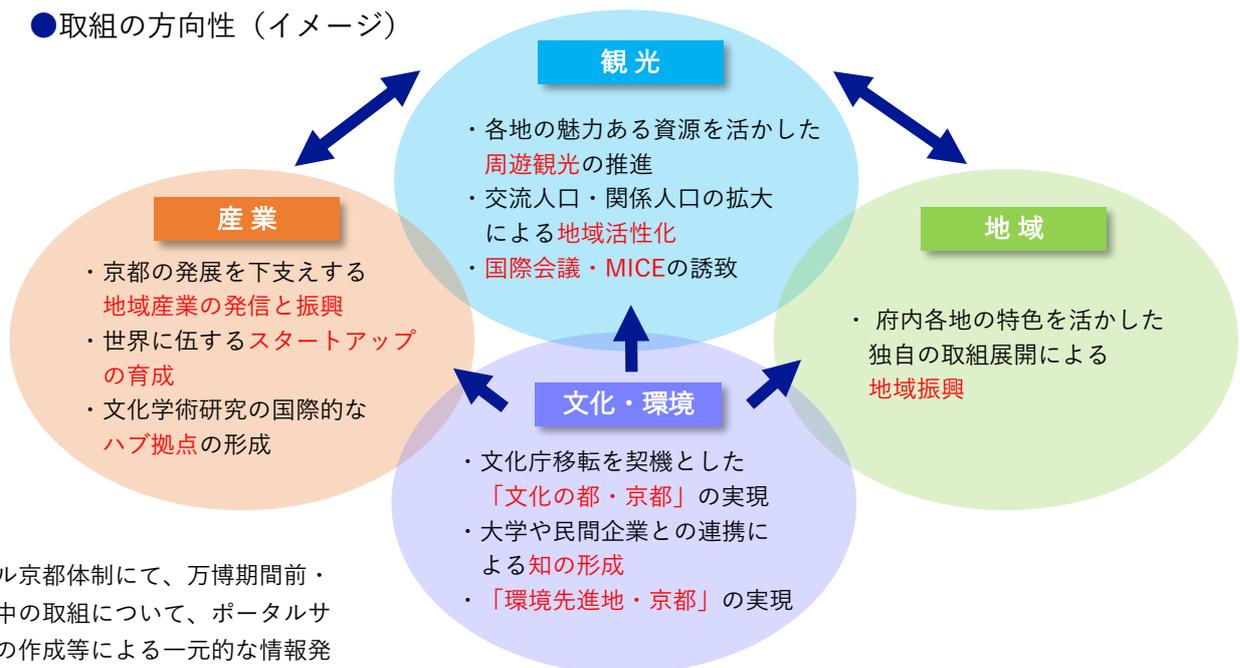
●古来より人や自然など様々な「いのち」との調和を図ってきた「文化・環境」、文化を土台にして発展してきた「産業」と「観光」、そして「地域」の4分野が密接に連携・融合した取組を実施。

●府内各地に人や投資を呼び込むことで、京都府全域の活性化に繋げるとともに、人と人、企業と企業、文化と文化などの「新たなつながり」を創り、未来の京都を担う人や企業、文化を育てていく。

<取組の考え方>

- 「文化・環境」分野においては、西陣織、京友禅などの伝統産業、茶の湯や華道、食文化など、多様かつ奥深い文化を育み、自然との調和を図ってきた京都ならではの取組を進める。
- 「産業」分野においては、伝統産業から先端産業まで様々な産業が集積する京都の強み、そして日本の産業発展を支えてきた京都のものづくり産業の底力を生かした取組を進める。
- 「観光」分野においては、京都が培ってきた「文化・環境」や「産業」を生かし、京都府各地に人を呼び込み、交流と連携を生み出す取組を進める。
- 「地域」分野においては、府内全域で地域の特色を活かした独自の取組を積極的に展開し、地域経済の活性化、参加諸外国との交流など、**地域振興**をはかる。
- なお、これらの取組は便宜的に分類しているものであり、実際は各分野が密接に連携しながら、取組を進めていくことになる。

●取組の方向性（イメージ）



オール京都体制にて、万博期間前・期間中の取組について、ポータルサイトの作成等による一元的な情報発信や、機運醸成・誘客促進のためのイベントを実施。

第2章 京都ブース展示基本計画

第2章 京都ブース展示基本計画

1. コンセプト・キーワード

海外から来訪された方にとってのゲートウェイとなる港と捉え、国家の枠組みを超えて、人と人が集い、語り、新しい関係が構築される場所とする。

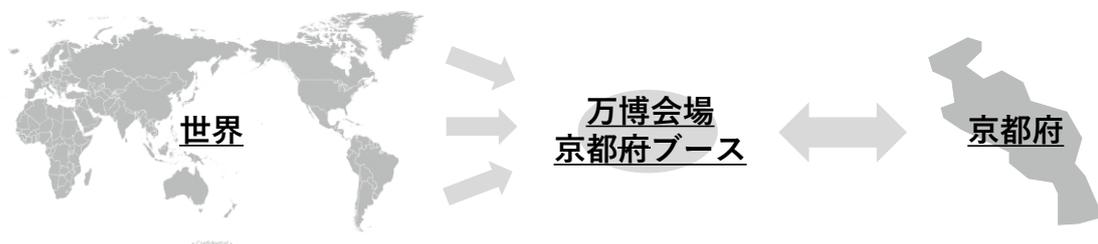
また京都は、基本構想の全体テーマである「一緒につくろう、京都の未来～伝統と革新で拓く～」にもその要素が見られるように、古来より脈々と受け継がれてきた伝統文化の中に、外からの新しい知見を積極的に取り入れながら、さながら川のように発展してきた。京都には、現代、そして未来に通じる生きるための知恵がある。

京都ブースでは、テーマの異なるカンファレンスやパフォーマンス、情報発信を日々展開することで、川や水のよ
うに形を変えながら、リアルタイムで府域とつながり、その知恵を感じることのできる場所としたい。

2. 京都ブースの特徴

- コンセプトを踏まえた京都らしいデザイン
- 「文化・環境」「産業」「観光」「地域」の各分野をテーマにした企画が一定期間ごとに展開
- 未来の京都を担う若い世代が中心となり、府民や府内企業の活力や想像力を最大限発揮した企画を展開
- 来場者は展示の他、実演や交流イベントなどにより、京都の魅力や奥深さを体感
- 来場者が府域のイベントと連携した企画に触れ、本物の京都を訪問

〈京都ブースの位置づけイメージ〉



3. 京都ブースに必要な機能

① 展示、実演、交流機能

- 基本構想の趣旨に沿った取組の展示やプレゼン、実演ができ、また、発表者や参加者が交流できる機能
(プロジェクターとスクリーンを設置)

② ゲートウェイとしての京都への誘客機能

- 万博会場から京都府域で開催する関連イベントの参加者等とコミュニケーションが取れる機能
- 発表者が府域で実施している事業の紹介や府域で開催されるイベント等の情報発信機能

第2章 京都ブース展示基本計画

4. 設計上の要件

現在明らかとなっている設計上の条件は以下の通りである。京都ブースは、以下を踏まえた設計とすること。

①ユニバーサルデザイン

- 性別、文化、言語の違いや障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめるユニバーサルデザインに配慮した計画を行う。展示コンテンツは多言語表示が可能な仕様を検討する。

②持続可能性へ配慮した調達等

- カーボンニュートラルや環境に配慮した設計を行うとともに、府内の資材や人材を積極的に活用する。
- 2025年日本国際博覧会策定の「持続可能性に配慮した調達コード」に適合すること。
特に3-(1)全般、3-(2)環境、4物品別の個別基準(別添：物品別の個別基準を含む)に十分留意すること。

③飲食及び物販の面積

- 飲食及び物販スペースは展示面積の10%以内は可能。
ただし、展示面積や飲食スペースの明確な定義が博覧会協会から示されていないため、具体的な平米数は不明。
- 物販を行う場合は、利益の一部を博覧会協会に納付する必要があるため、事前に内容等を示し、京都府の承認を得ること。

④火器の使用

- 裸火の使用は不可。IH等の電子調理器の使用可否は示されていない。

⑤天井の整備

- プロジェクター設置等の設営や防音の都合での天井の設置は可能であるが、設置が必要と考える場合は、事前に内容や金額を示し、京都府の承認を得ること。

⑥壁の材質

- 壁は、石膏ボードであるため、その内容を踏まえた設計とする。

⑦バックヤードを加味した設計

- バックヤードは、京都ブース(126㎡)の中に設置する必要があるため、その内容を踏まえた設計とする。

第3章 京都ブース運営計画

第3章 京都ブース運営計画

1. 運営方針

運営計画は、京都府ブースの魅力を最大限に体感していただける展示空間を提供し、万博会場と関西パビリオンで定められた諸条件や諸計画に従い、個別に運営計画を検討の上、すべての方に安全で安心な体験を提供すること。

2. 個別運営計画

①サービス計画

関西広域連合が示す基本計画等と調整の上、ユニバーサルデザインや多言語対応について検討を行い、京都ブースにおいて全ての方が安全・安心で快適に楽しめるサービスを提供する。

②案内誘導計画

京都ブースでの案内誘導においては、スペースの特性を考慮して、適切な入場人数を決定し、安全性とサービス性の両面からスタッフやボランティアの配置を行います。また、関西広域連合と連携・協議を行い、無駄のない適切な案内誘導計画を検討する。

③ボランティア計画

多くの方が参加、活躍できる場として、安心して参加していただける計画を策定し、募集を検討する。

④警備計画

事前に予測される事故や災害に対して、迅速な対応が可能な体制を整備し、関係機関と連携して参加者や関係者の安全を確保する。

⑤救護・衛生管理計画

傷病者が発生した際に、迅速な対応ができる体制を整え、博覧会協会や関西広域連合と協議の上、対策計画を策定します。

⑥衛生管理計画

快適な展示スペースの維持に努め、清掃業務やゴミの管理体制の整備を行い、衛生管理を行います。

⑦消防防災計画

初期対応や避難誘導など、博覧会協会や関西広域連合と協議の上、消防防災計画を策定します。

⑧保険等の計画

想定されるリスクを洗い出し、必要な保険へ加入する。

⑨レイアウトの変更

一定期間での展示内容の入れ替えに伴うレイアウト等の変更に合わせ、スタッフ配置、案内誘導計画等を検討する。

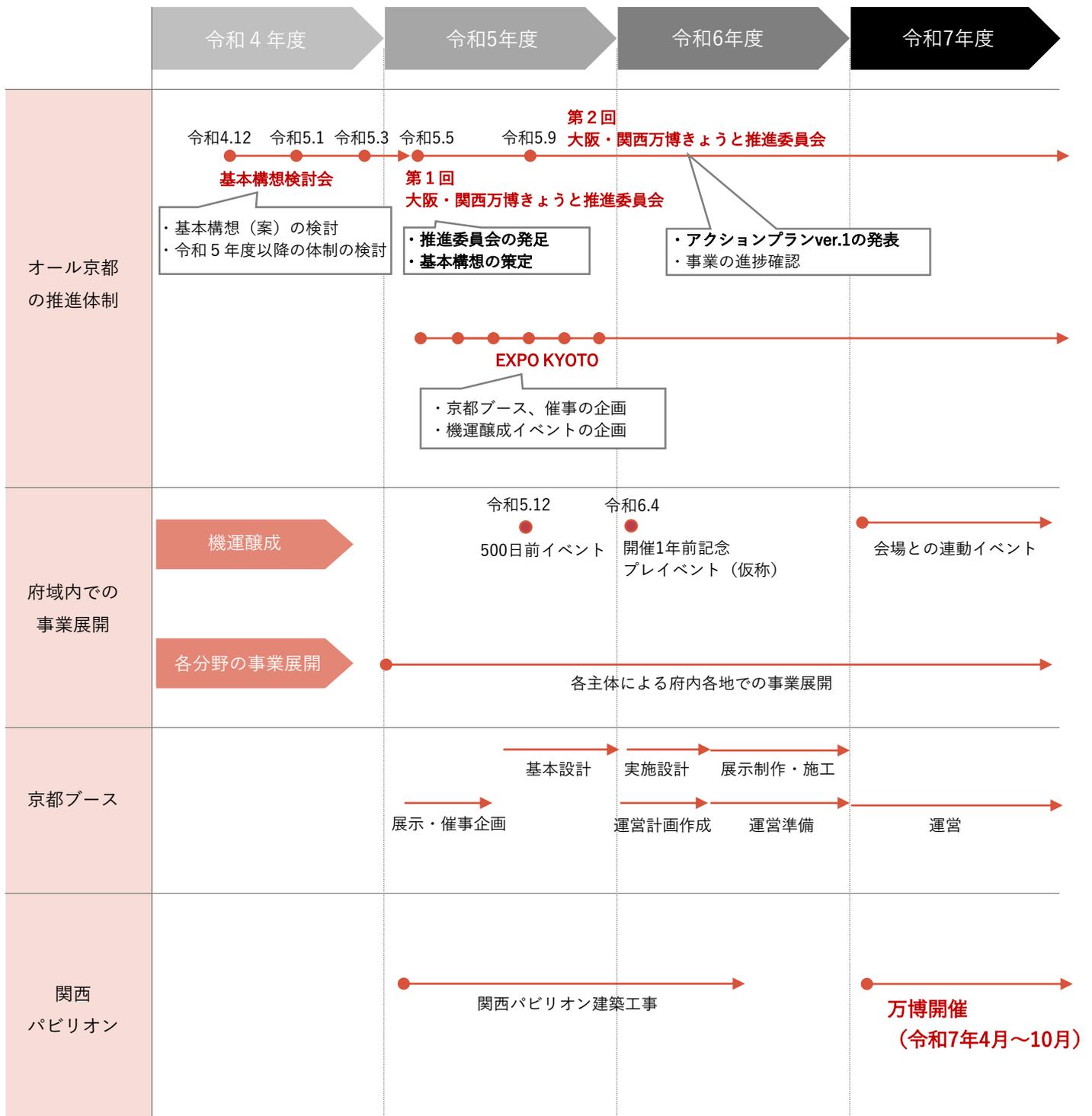
⑩効果検証（アンケート調査）

京都ブースにおける取組に関する効果検証を目的とした、アンケート調査を実施する。

第4章 全体スケジュール

第4章 全体スケジュール

1. 全体スケジュール



※現時点での予定です。